

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第79集

戸坂遺跡群

# 四ツ塚遺跡 I

YOTUZUKA

長野県佐久市新子田四ツ塚遺跡 I 発掘調査報告書

2000.3

佐 久 市  
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第79集

戸坂遺跡群

# 四ツ塚遺跡 I

YOTUZUKA

長野県佐久市新子田四ツ塚遺跡 I 発掘調査報告書

2000.3

佐 久 市  
佐久市教育委員会



四ツ塚遺跡Ⅰ航空写真（南から）



四ツ塚遺跡Ⅰ航空写真（西から）



四ツ塚遺跡 I 航空写真 (垂直)



H3号住居址全景（南から）



H3号住居址かまど



調査風景 (1)



調査風景 (2)

## 例 言

- 1 本書は、佐久市保健福祉部老人福祉拠点整備推進室による老人福祉拠点推進事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 調査委託者 佐久市大字中込 3056  
佐久市保険福祉部老人福祉拠点整備推進室
- 3 調査受託者 佐久市大字中込 3056  
佐久市教育委員会 依田 英夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地積  
戸坂遺跡群 四ツ塚遺跡Ⅰ(TYM)  
佐久市大字新子田字供養塚866外1筆
- 5 調査期間及び面積 平成10年7月1日～平成10年8月21日(現場作業)  
平成10年8月24日～平成12年3月31日(整理作業)  
開発面積 7,500㎡  
調査面積 4,600㎡
- 6 調査担当者 上原 学
- 7 本書の執筆・編集は上原が行った。
- 8 整理作業分担 遺物復元 荒井ふみ子 小林まさ子 高橋サチコ  
遺物実測・図面修正 小林百合子 高橋敬子 比田井久美子 細谷秀子  
トレース 武者幸彦
- 9 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺跡の略称 TYM
- 2 遺構の略称 竪穴住居址-H 竪穴状遺構-Ta 掘立柱建物址-F 土坑-D  
溝状遺構-M
- 3 遺構の縮尺 竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑 1/80 溝状遺構 1/400 古墳 1/120
- 4 遺構の標高は各遺構図版上に明記。
- 5 土層・遺物の色調は1988年度版「新版 標準土色帖」を使用。
- 6 調査区グリッドは公共座標に基づき大グリッド40×40m、小グリッド4×4mに設定。

# 目 次

巻頭カラー

例 言

凡 例

## 第 I 章 発掘調査の経緯

- 第 1 節 発掘調査の経緯…………… 1
- 第 2 節 調査体制…………… 3

## 第 II 章 基本層序…………… 4

## 第 III 章 周辺遺跡…………… 4

## 第 IV 章 遺構と遺物

- 第 1 節 竪穴住居…………… 9
  - H 1 号住居…………… 9
  - H 2 号住居…………… 10
  - H 3 号住居…………… 13
  - H 4 号住居…………… 16
  - H 5 号住居…………… 18
- 第 2 節 竪穴状遺構…………… 20
  - T a 1 号竪穴状遺構…………… 20
  - T a 2 号竪穴状遺構…………… 21
- 第 3 節 掘立柱建物址…………… 21
- 第 4 節 土坑…………… 22
  - D 1 号土坑～D 10 号土坑…………… 22
- 第 5 節 古墳跡…………… 23
- 第 6 節 溝状遺構…………… 28

写真図版

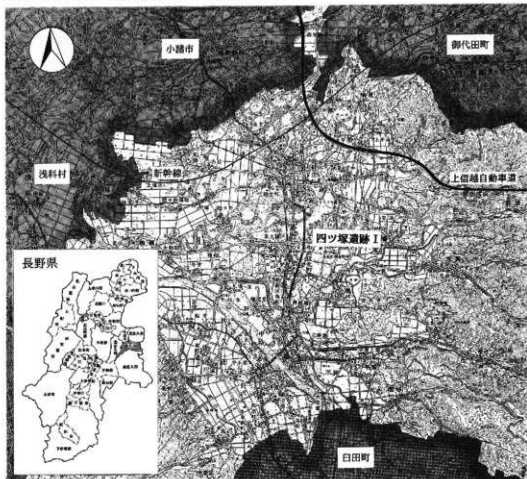


## 第I章 発掘調査の経緯

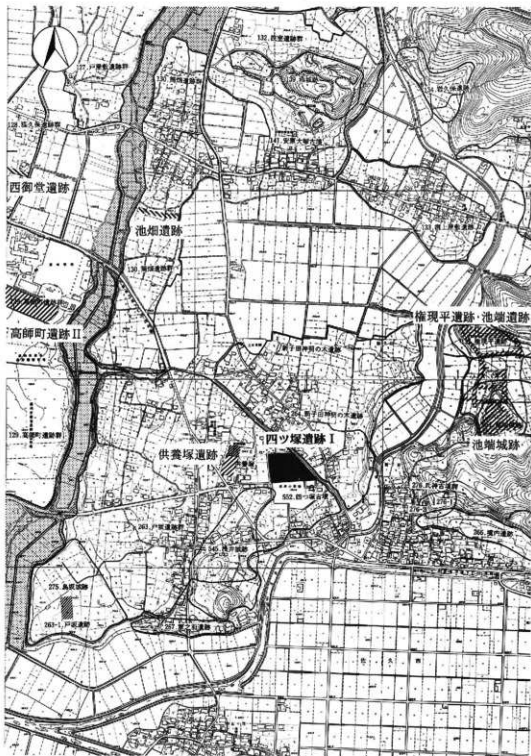
### 第1節 発掘調査の経緯

戸坂遺跡群四ツ塚遺跡は佐久市大字新子田地積に所在し、湯川の東に広がる標高705m内外の台地東端に展開する。調査区は平成2年に遺跡の南東に建築された東小学校に志賀小学校とともに統合された三井小学校の跡地である。また調査区周辺は以前、数基の古墳が存在していたとされる地域であるが、現在は四ツ塚古墳1基が認められるだけである。

今回、佐久市保健福祉部老人福祉拠点整備推進室による老人福祉拠点推進事業が行われることとなり、開発地域における遺構の存在を確認するため、平成10年3月に試掘調査を行った。その結果、古代の竪穴住居址、溝跡等が認められたため、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。



四ツ塚遺跡 I 位置図 (1:100,000)



四ツ塚遺跡 I 位置図 (1 : 10,000)

## 第 2 節 調査体制

### 平成10年度

教 育 長	依田 英夫
教 育 次 長	北沢 馨
埋蔵文化財課長 (兼) 管理係長	須江 仁胤
埋蔵文化財係長	荻原 一馬
埋蔵文化財係	林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田 卓也 富沢 一明 上原 学
調 査 主 任	佐々木 宗昭 森泉 かよ子

### 平成11年度

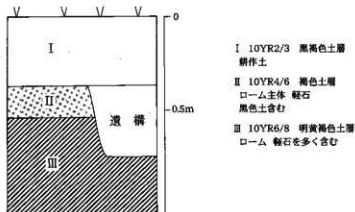
教 育 長	依田 英夫
教 育 次 長	小林 宏造
文化財課長	草間 芳行
文化財係長	荻原 一馬
文化財係	林 幸彦 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田 卓也 富沢 一明 上原 学 出澤 力 山本 秀典
調 査 主 任	佐々木 宗昭 森泉 かよ子

### 平成10・11年度

調 査 担 当 者	上原 学
調 査 員	碓氷 智子 碓氷 英之 荒井 ふみ子 大井 みつる 柏木 義雄 小林 まさ子 小林 百合子 佐々木 正 佐々木 久子 佐藤 剛 清水 佐知子 関口 正 高橋 サチコ 高橋 敬子 田中 章雄 成沢 富子 花里 四之助 花里 三佐子 林 幸男 比田井 久美子 細谷 秀子 若林 希 渡辺 久美子 渡辺 倍男 武者 幸彦

## 第Ⅱ章 基本層序

四ツ塚遺跡Ⅰ発掘調査における層序は3層認められた。Ⅰ層は黒褐色の表土で、Ⅱ層は表土とロームに挟まれた褐色土、Ⅲ層は黄褐色のローム土である。このうち遺構はⅡ層上面において検出可能であった。



基本層序模式図

## 第Ⅲ章 周辺遺跡

戸坂遺跡群四ツ塚遺跡の所在する湯川左岸に広がる台地周辺には、幾つもの遺跡群・遺跡が認められる。西には高師町遺跡群、東には池端遺跡、権現平遺跡、境内遺跡、北に茂室遺跡群、宿上屋敷遺跡、筒畑遺跡群、光明寺遺跡、南に家之前遺跡、戸坂遺跡が所在する。またこの付近には古墳も数多く築造されている。それらは今回調査対象地となった戸坂遺跡群内の四ツ塚古墳、東の氏神古墳群、北の安原大塚古墳、北東の入大久保古墳群である。またこの付近は西に丘陵地がせまるといった地理的条件から中世の山城と称される地域も多く、北に燕城跡、東に池端城跡、南に浅井城跡、鳥坂城跡が所在する。

周辺地域における発掘調査例は調査区西の高師町遺跡、供養塚遺跡、東の権現平・池端遺跡、北の池畑・西御堂遺跡、宿上屋敷遺跡、下川原・光明寺遺跡があげられる。各遺跡の調査状況を見ると、四ツ塚遺跡北方の安原地積に認められる南北方向に延びる田切りに挟まれた台地上に位置する池畑・西御堂遺跡は、昭和60年に道路改良事業に伴い発掘調査が行われ、池畑遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居址、溝状遺構、奈良から9世紀代の土坑が検出され、西御堂遺跡からは土坑が検出された。同じく安原地積に位置する宿上屋敷遺跡、下川原・光明寺遺跡は西方から迫る丘陵地との境付近の平坦な台地及び緩斜面上に位置し、昭和61年度に道路改良工事に伴い調査が行われ、宿上遺跡では古墳・平安時代の竪穴住居址、土坑等を検出、下川原・光明寺遺跡では中世の竪穴状遺構、溝状遺構、土坑等が検出された。また西方の新子田地積に認められる南北方向に延びる田切りに挟まれた台地上に位置する高師町遺跡では、昭和61年度に道

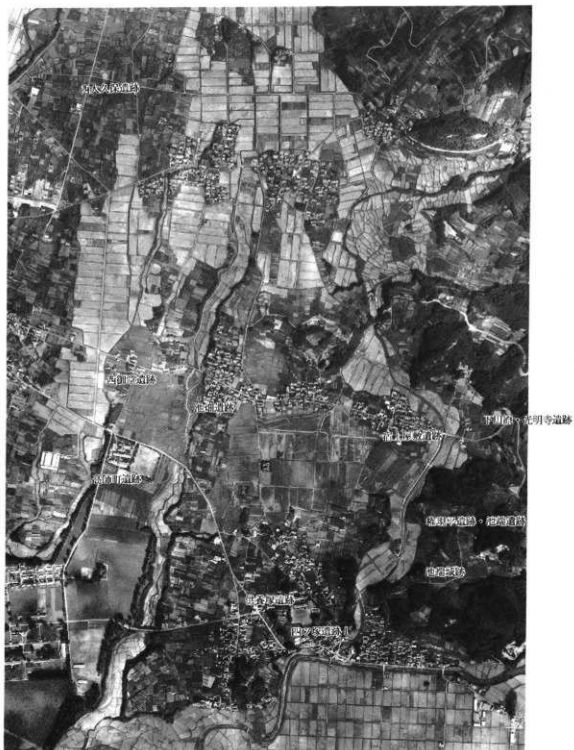
路建設に伴う高師町遺跡の調査が、平成7年度には葬祭センター建設に伴い高師町遺跡Ⅱの調査が行われ、高師町遺跡では平安時代と思われる土師器・須恵器を伴う竪穴状遺構、時期不明土坑、溝等が、高師町遺跡Ⅱでは平安時代の竪穴住居址、掘立柱建物址、平安・中世の土坑、溝状遺構等が検出された。東方の権現平・池端遺跡では宅地造成に伴い平成6年度に調査が行われ、調査区の掘削部及び道路部分の調査ではあったが、縄文・古墳・平安時代の竪穴住居址・土坑、中世の竪穴状遺構、井戸跡等多くの遺構を検出した。また、平成7年度には平成6年度調査区の南に接する地域において土地の造成工事に伴い池端城跡の調査が行われ、縄文・古墳・奈良・平安時代の竪穴住居址、土坑、中世の竪穴状遺構、土坑、ピット群等が検出された。また発掘調査が行われた遺跡中、最も四ツ塚遺跡に近接する供養塚遺跡では、平成10年度に児童館建設に伴い調査が行われ、奈良時代の竪穴住居址、掘立柱建物址、溝状遺構が検出され、検出した遺構の時期・形態から四ツ塚遺跡と供養塚遺跡の住居址は同一集落と考えられた。

以上、四ツ塚遺跡周辺では古くは東方向から迫る丘陵地帯の斜面を利用して縄文時代の集落が形成され、(権現平遺跡)その後は丘陵地の緩斜面(権現平遺跡・池端遺跡)または湯川左岸の田切りに挟まれた南北に長い台地上(高師町遺跡、宿上屋敷遺跡、池畑遺跡等)に弥生時代末から平安時代にかけての生活の痕跡が見受けられるようになる。また古墳時代に築かれた古墳は、丘陵地の沢に入り込んだ日当たりの良い南斜面(入大久保古墳群)あるいは、台地の先端・縁辺部(四ツ塚古墳、氏上古墳群)といった地形を利用し築造されている。さらに中世になると丘陵地、独立丘陵(燕城跡)あるいは丘陵地に接するやや小高い台地上(池端城跡)を利用した城、山城が築かれるようになる。

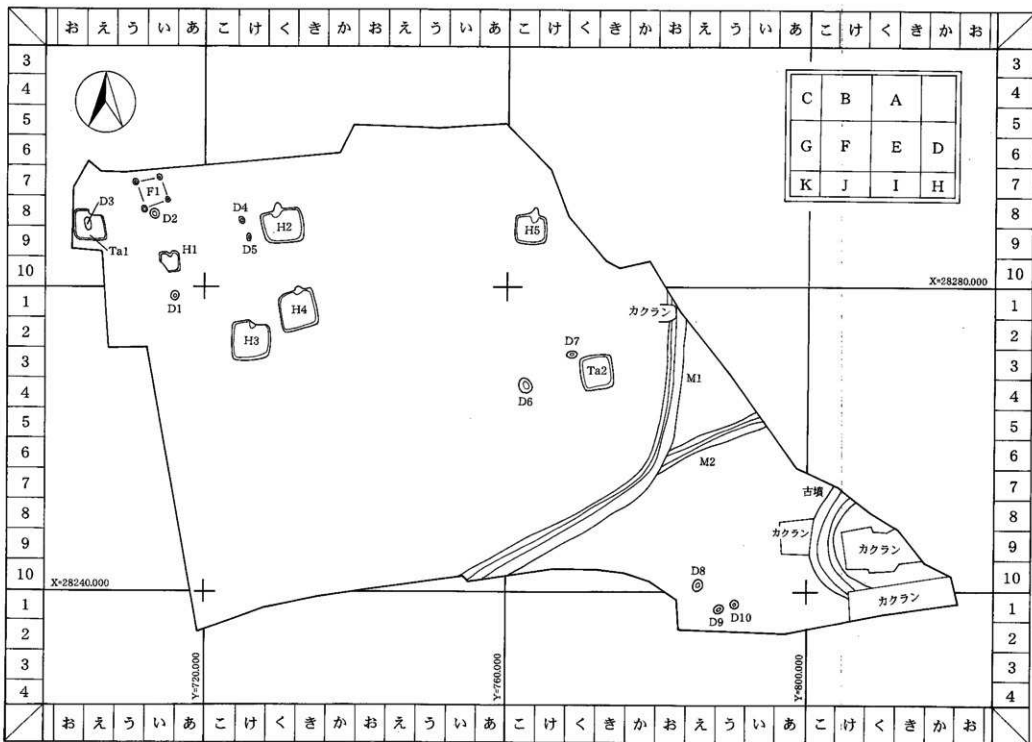
遺跡名	住 所	縄	弥	古	奈	平	中	備 考
高師町遺跡	新子田字高師町					○	○	S61、H1-調査
池端遺跡	新子田字池端・権現平	○	○	○	○	○	○	H6調査
権現平遺跡	安原字権現平	○	○	○	○	○	○	H6調査
境内遺跡	新子田字境内		○	○	○	○	○	
夜室遺跡群	安原字夜室・城前 外			○	○	○	○	
宿上屋敷	安原字上屋敷				○	○	○	S61調査
駒畑遺跡群	安原字駒畑・池端 外	○	○	○	○	○	○	S61調査
下川原遺跡	安原字下川原					○	○	S61調査
光明寺遺跡	安原字光明寺					○	○	S61調査
家之前遺跡	新子田字家之前		○	○	○	○	○	
池畑遺跡	安原字池畑	○	○	○	○	○	○	S60調査

遺跡名	住 所	縄	弥	古	奈	平	中	備 考
西御堂遺跡	安原字西御堂		○	○			○	S60調査
供養塚遺跡	新子田字供養塚					○		H10調査
四ツ塚古墳	新子田字四ツ塚				○			
氏神古墳群	新子田字氏神				○			
安原大塚古墳	安原字城前				○			
入大久保古墳群	番敷字入大久保				○			
燕城跡	安原字城山・城裏							○
池端城跡	新子田字池端	○	○	○	○	○	○	H7調査
鳥取城跡	新子田字戸返							○
浅井城跡	新子田字辻ヶ久保							○
西大久保遺跡	上平尾・下平尾					○		S61調査

周辺遺跡表



四ツ塚遺跡1周辺航空写真

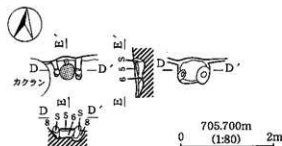
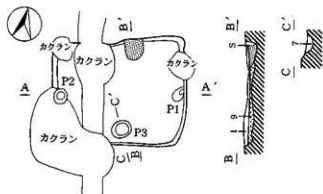


四ツ塚道路 I 遺構配置図 (1:500)

## 第IV章 遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居址

#### H1号住居址



- 1 黒褐色土(10YR2/2) 軽石、ロームブロック、しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ローム粒、ロームブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体、軽石含む、しまりなし。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体、軽石含む、しまりなし。
- 5 暗赤褐色土(5YR3/6) 焼土層(火床)
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 炭化物、軽石含む、しまりなし。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを多量に含む、しまりあり。
- 8 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒、ロームブロックを含む、しまりあり。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 軽石、ロームを多く含む、しまりあり。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 軽石を含む、しまりあり。
- 11 黄褐色土(10YR5/6) ロームブロックを含む。
- 12 褐色土(10YR4/4) 軽石、ローム粒、黒色土を含む、しまりあり。

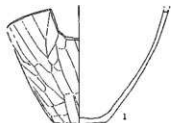
#### H1号住居址実測図

遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱(個)	貼り床(cm)	竈方(cm)	出土遺物	重要遺構
H1	C-4-10	方形	北壁中央	奈良	3	2~4	12~18	須恵器 土師器	南内隅焼孔
竈	ca	壁長	壁高	遺構は調査区北西隅に位置する。壁高は8~10mと低い。床面は2~4cmの厚さで貼り床され堅くしまっている。ピットは床面上から3個確認でき、このうち東内隅部の中央に位置する2個のピットが主住穴と思われる。かまどは北壁の中央に位置し、柱及び火床の一部が残存していた。火床には厚さ8cm内外の焼土が堆積し、その北側には支脚と思われる石が埋め込まれていた。竈方は12~18cmの厚さで圍り込まれ、鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。					
	北壁	268	5~12						
	南壁	(250)	7~14						
	東壁	224	9~11						
内壁	(230)	7~10							

遺物は土師器・須恵器が出土した。図示できたのは1点で土師器の壺である。

#### H1号住居址観察表



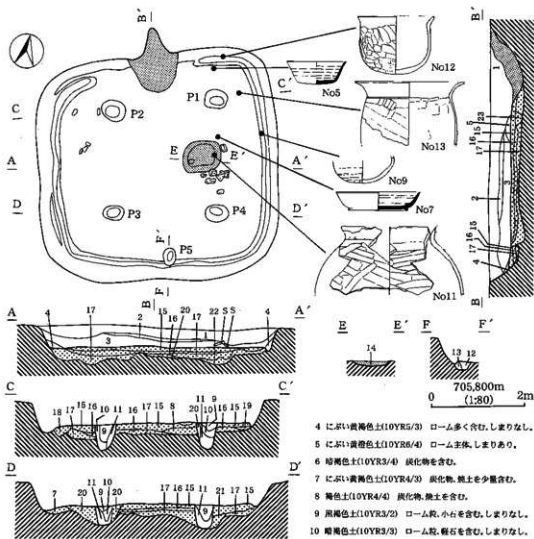


番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm
1	土器器	壺		3.6	
調 整			残存率%	焼成	色 調
外底	へつ削り		広部・	良好	5YR5/4
内面	へつナデ		体部下半		鈍い赤褐色

H1号住居址出土遺物観察表

H1号住居址出土遺物実測図

H2号住居址

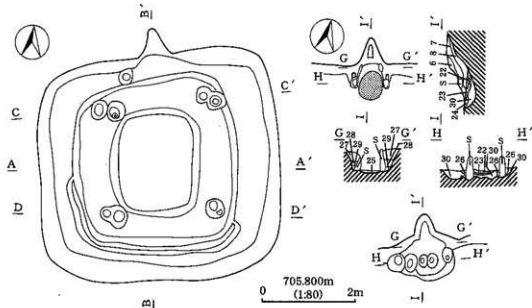


- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム/ブロック状、軽石を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック状、軽石を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/2) ロームブロック状、軽石を含む。

H2号住居址実測図(1)

- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム多く含む。しまりなし。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム主体。しまりあり。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物を含む。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 炭化物、軽土を少量含む。
- 8 褐色土(10YR4/4) 炭化物、軽土を含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/2) ローム状。小石を含む。しまりなし。
- 10 暗褐色土(10YR3/3) ローム状。軽石を含む。しまりなし。
- 11 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりなし。
- 12 暗褐色土(10YR3/3) ローム状。軽石含む。
- 13 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりなし。

- 14 明赤褐色土(5YR5/8) 焼土層、しまりあり。  
 15 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体、しまりあり。  
 16 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを多く含む、礫石を含む、しまりあり。  
 17 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体、しまりなし。  
 18 褐色土(10YR4/4) ロームを多く含む、しまりあり。  
 19 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体、しまりややあり。  
 20 灰黄褐色土(10YR6/2) ローム主体、しまりややあり。  
 21 灰黄褐色土(10YR6/2) ローム主体、しまりなし。  
 22 明赤褐色土(5YR5/6) 焼土層、23 褐色土(5YR6/6) 焼土層。  
 24 褐色土(10YR4/4) 焼土、灰を含む、しまりなし。  
 25 褐色土(10YR4/3) 焼土、灰を含む、しまりなし。  
 26 褐色土(10YR4/6) ローム主体、黄褐色土を含む、しまりなし。  
 27 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 炭化物、灰土、礫石を含む、しまりあり。  
 28 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、礫石、炭化物を含む、しまりややあり。  
 29 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム多く含む、しまりなし。  
 30 褐色土(10YR4/4) 灰、焼土を含む、しまりなし。

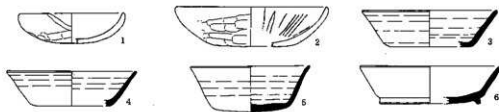


H2号住居址実測図(2)

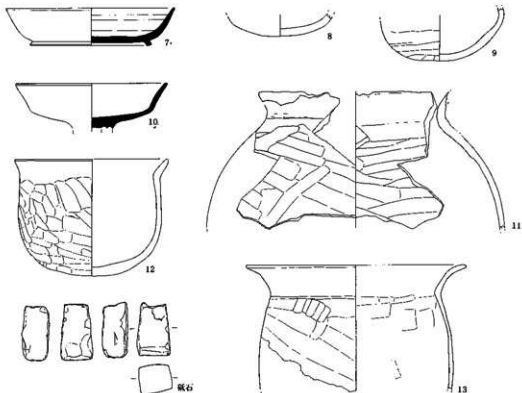
遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱穴(個)	貼り床(cm)	掘方(m)	出土遺物	重複遺構
H2	B-C-9	隅丸方形	北壁中央	奈良	511	3~9	14~24	須恵器 土師器	
堀	ca	壁長	壁高	遺構は調査区北側に位置する。壁高は45~60cmを測り、やや外傾型時に立ち上がる。床面は堅く貼り床され、壁際には幅15cm、深さ12cm内外の溝溝が存在する。ピットは床面上で5個確認でき、このうちP1~P4が主柱穴である。かまどは北壁中央に埋め込まれており、袖の一部及び火床が残存していた。袖の先端及び内壁には石材が使用され、火床には10cmの灰土が堆積していた。掘方は中央及び壁際を浅く、その間を深くドーナツ状に掘り込み、鈍い黄褐色土を埋め込んでいた。					
	北壁	448	45~60						
	南壁	443	59~66						
	東壁	431	54~47						
溝	凸壁	380	58~68						

遺物は須恵器環、高杯、土師器環、甕、広口壺、甕が出土した。図示できたのは13点である。

H2号住居址観察表



H2号住居址出土遺物実測図(1)

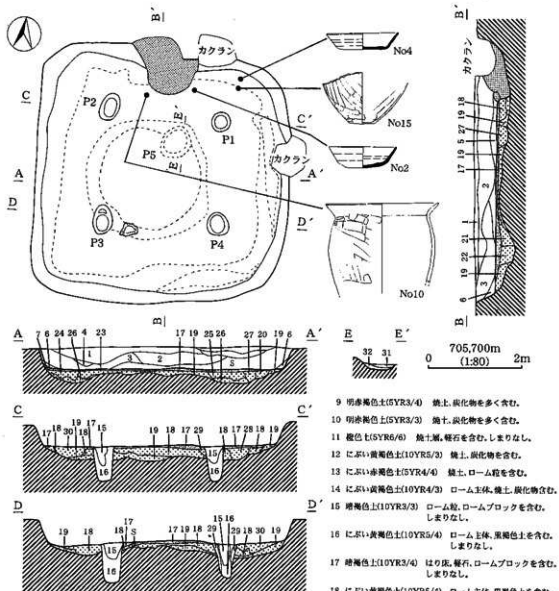


H2号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	備 考	残存率%	胎 成	色 調	備 考
1	土師器	坏	(10.8)	丸底	3.2	外面 底部付近へラ削り	20	良	5YR6/6 褐色	
2	土師器	坏	(18.1)	(8.4)	4.1	外面 底部へラ削り 内面 ミガキ	20	良	7.5YR6/6 褐色	
3	須恵器	坏	(12.0)	(9.0)	3.8	内外面 へラ削り	20	良好	10YR7/3 鈍い灰褐色	
4	須恵器	坏	(13.8)	(7.8)	3.7	内外面 ロクロナデ	15	良好	2.5Y4/1 黄灰色	
5	須恵器	坏	(12.0)	7.9	4.8	内外面 ミコナデ 底部 回転へラ切り	40	良好	2.5Y7/3 黄灰色	
6	須恵器	高台付坏	(14.8)	(10.7)	4.0	内外面 ロクロナデ 底部 高台貼り付け	20	良好	7.5Y6/2 灰オリーブ色	
7	須恵器	高台付坏	17.9	12.7	3.9	内外面 ロクロナデ 底部 回転へラ切り後高台貼り付け	80	良好	5Y4/1 灰色	
8	土師器	鉢	-	丸底	-	底部 へラ削り	底部40	良	5YR6/6 褐色	
9	土師器	甕	-	丸底	-	内外面 ハケ目	底部100	良好	7.5YR6/6 褐色	
10	須恵器	高坏	(16.0)	-	-	内外面 ロクロナデ	坏部40	良	10YR6/2 灰黄褐色	へラ記号
11	土師器	甕	-	-	-	口縁 ミコナデ 外面 へラ削り 内面 ヘラナデ	口縁50	良好	5YR6/6 褐色	
12	土師器	広口甕	16.8	丸底	12.4	口縁 ミガキ 外面 へラ削り 内面 ミガキ	80	良好	7.5YR6/6 褐色	
13	土師器	甕	(28.2)	-	-	口縁 ミコナデ 外面 へラ削り 内面 ヘラナデ	口縁45	良好	10YR6/3 鈍い黄褐色	

H2号住居址出土遺物観察表

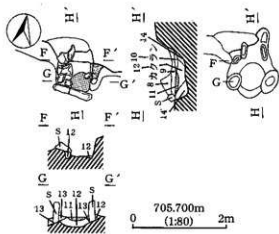
### H 3 号住居址



- 1 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム粒、ロームブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ロームブロックを含む、しまりなし。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒、焼土を含む。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体、暗褐色土を含む、しまりなし。
- 7 褐色土(10YR4/4) ローム主体、暗褐色土を含む、しまりなし。
- 8 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、軽石、焼土を含む。

- 9 明赤褐色土(5YR3/4) 焼土、炭化物を多く含む。
- 10 明赤褐色土(5YR3/3) 焼土、炭化物を多く含む。
- 11 褐色土(5YR6/6) 焼土層、軽石を含む、しまりなし。
- 12 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土、炭化物を含む。
- 13 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 焼土、ローム粒を含む。
- 14 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体、焼土、炭化物を含む。
- 15 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロックを含む、しまりなし。
- 16 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体、黒褐色土を含む、しまりなし。
- 17 暗褐色土(10YR3/4) はり皮、軽石、ロームブロックを含む、しまりなし。
- 18 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体、黒褐色土を含む、しまりなし。
- 19 にぶい淡褐色土(10YR6/4) ローム主体、しまりなし。
- 20 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、ロームブロックを多く含む、しまりなし。
- 21 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体、しまりなし。
- 22 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ロームブロックを含む、しまりなし。
- 23 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体、しまりややあり。
- 24 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ロームブロックを多く含む。

H 3 号住居址実測図

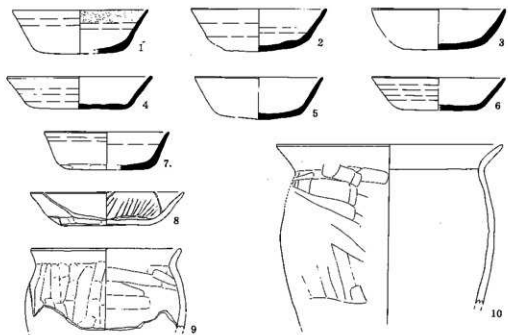


- 25 褐色土(10YR4/4) ローム主体,しまりややあり。
- 26 ぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体,しまりなし。
- 27 暗褐色土(10YR3/3) 軽石,ローム粒,黑色土を含む。
- 28 暗褐色土(10YR3/4) 軽石,ローム粒を含む,しまりなし。
- 29 褐色土(10YR4/4) 軽石,暗褐色土を含む,しまりなし。
- 30 暗褐色土(10YR3/4) 軽石,ロームを含む。
- 31 ぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体,しまりなし。
- 32 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒を含む,しまりなし。

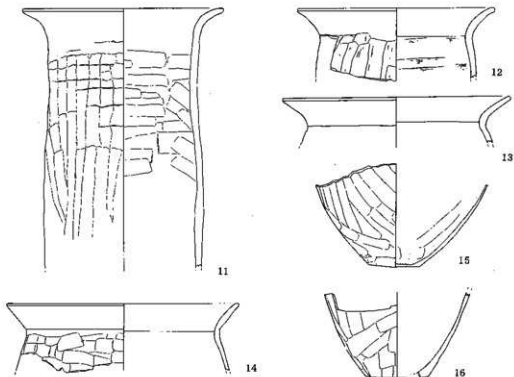
H3号住居址かまど実測図

遺構No	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱穴(個)	貼り床(m)	竈方(m)	出土遺物	重複遺構
H3	F-け-2	隅丸方形	北壁中央	奈良	4	4~6	12~28	須恵器土師器	
竈	cm	壁長	壁高	竈構は調査区中央の北西よりに位置する。壁高は40~54cmを測り、やや外傾傾斜に立ち上がる。床は堅く貼り床され、主柱火と思われるピットが4個確認できた。かまどは北壁中央に構築され、板敷に破壊されているが、両袖の一部及び火床が残存していた。袖先端及び内壁の一部に石が利用され、赤く焼けていた。焚き口付近には袖先端部に乗せられたと思われる長方形に加工された石材が崩落し積たわっていた。火床には厚さ6cmの焼土が埋積していた。竈方は床下全面に8~25cmの厚さで張り込まれ、鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。					
	北壁	495	42~54						
	南壁	500	40~52						
	東壁	450	43~45						
竈	西壁	500	40~51						
	遺物は須恵器環、壺、土師器環、壺、瓦口蓋が出土した。図示できたのは1点である。								

H3号住居址観察表



H3号住居址出土遺物実測図(1)

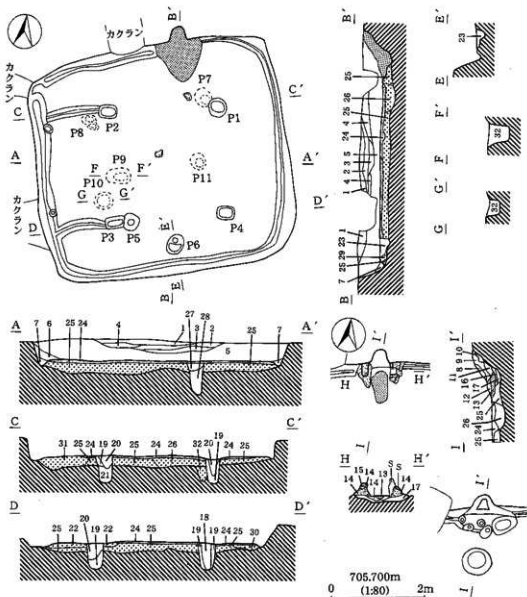


H 3号住居址出土遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色面	備考	
1	須臾器	坏	(14.2)	(7.9)	4.6	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ切り	45	良好	10YR4/2 灰赤色		
2	須臾器	坏	(14.8)	7.6	4.5	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ切り	75	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色		
3	須臾器	坏	14.2	8.5	4.3	内外面 底面	ロクロナデ ヘラ削り	60	良好	7.5YR7/6 褐色		
4	須臾器	坏	15.4	8.0	3.6	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ削り	75	良好	10YR4/1 純灰色	裏面ヘラ 記号	
5	須臾器	坏	(13.6)	8.8	4.5	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ切り	40	良好	5YR4/3 鈍い赤褐色		
6	須臾器	坏	(14.2)	(8.0)	4.5	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ切り	25	良好	2.5YR6/3 灰黄色		
7	須臾器	坏	(13.2)	(7.8)	4.0	内外面 底面	ロクロコナデ ヘラ削り	30	良好	N5/ 灰色		
8	土師器	坏	(18.2)	(8.0)	3.5	内面 底面	ミガキ ヘラ削り	20	良好	5YR6/6 褐色		
9	土師器	壺	(16.0)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	25	良	5YR6/3 鈍い褐色	
10	土師器	壺	(24.0)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	15	良好	5YR5/6 明褐色	
11	土師器	壺	(21.2)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	30	良	7.5YR7/4 鈍い褐色	
12	土師器	壺	(21.0)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	1口縁30	良	7.5YR6/6 鈍い褐色	
13	土師器	壺	(24.0)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	口縁15	良好	5YR6/3 鈍い褐色	
14	土師器	壺	(22.8)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	口縁25	良	7.5YR5/4 鈍い褐色	
15	土師器	壺	-	5.5	-	内面 外面	ヘラナデ ヘラ削り	底面周辺	良好	7.5YR2/3 黒褐色		
16	土師器	壺	-	6.6	-	内面 外面	ヘラ削り ヘラナデ	底面70	良	7.5YR5/4 鈍い褐色		

H 3号住居址出土遺物観察表

# H 4 号住居址



- 1 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒含む、しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒含む、しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 軽石、ローム粒・炭化物含む、しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒・炭化物含む、しまりあり。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム粒・炭化物含む、しまりあり。
- 6 黄褐色土(10YR5/5) ローム主体、しまりあり。
- 7 褐色土(10YR4/6) ローム主体、しまりなし。
- 8 におい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒、炭化物含む、しまりややあり。

- 9 黒褐色土(10YR2/3) 粘土、ローム粒、炭化物を含む、しまりなし。
- 10 におい黄褐色土(10YR7/4) 黄土、炭を多く含む。
- 11 黒褐色土(10YR2/3) 粘土、ローム粒、炭土、炭化物を含む、しまりなし。
- 12 におい黄褐色土(10YR4/3) 炭土多量を含む、しまりなし。
- 13 赤褐色土(5YR4/6) 黄土層、しまりなし。
- 14 暗灰色土(N7/3) 粘土層、しまりあり。
- 15 灰色土(N4/0) 粘土層、しまりあり。

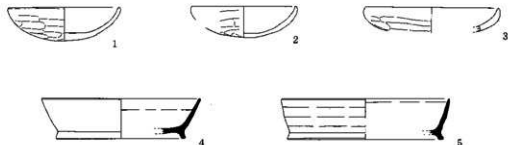
H 4 号住居址実測図

- 16 褐色土(10YR4/1) 礫石、灰を含む。しまりなし。  
 17 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体。暗褐色土含む。しまりなし。  
 18 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物、礫石含む。しまりなし。  
 19 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体。しまりややあり。  
 20 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりあり。  
 21 褐色土(10YR4/4) 粒子細かく。しまりなし。  
 22 褐色土(10YR4/3) 礫石含む。粒子細かい。しまりなし。  
 23 暗褐色土(10YR3/4) ローム胎含む。しまりなし。  
 24 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりあり。(粘り床)  
 25 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりややあり。  
 26 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック、礫石、炭化物含む。  
 27 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりあり。  
 28 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム主体。しまりなし。  
 29 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりなし。  
 30 暗褐色土(10YR3/4) ローム、礫石含む。しまりあり。  
 31 褐色土(10YR4/4) ローム主体。礫石含む。しまりややあり。  
 32 褐色土(10YR4/4) ローム主体。礫石含む。しまりなし。

遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱(部)	貼り床(cm)	版(方cm)	出土遺物	覆被遺構
H4	F-き-1	隅丸方形	北壁	奈良	615	4~7	18~28	須恵器 土師器	中央付近に東西 方向の擾乱
根	cm	壁長	壁高	遺構は調査区北に位置する。壁高は30~54cmを測り、やや傾斜状に立ち上がる。床は堅く貼り床され、壁際に幅18cm、深さ15cm以内の凹溝が存在した。ピットは床面上で5個確認できP1~P4が主柱穴と考えられP2、P3の奥には壁際から溝が張り込まれているため、間仕切りの存在が伺える。かまどは北壁のやや東よりに構築され、地の一部が既行し先端の一部に石材が使用されこれを粘土で覆っていた。火床には黄土の堆積が認められた。掘方は床下全体にわたって掘り込まれ、黄い褐色土が埋め込まれていた。掘方から新たに5個のピットが確認できた。					
	北壁	485	20~42						
	西壁	475	48~54						
	東壁	460	48~54						
横	西壁	445	44~50						

遺物は土師器の埴、埴、須恵器の埴、壺が出土した。図示できたのは5点である。

#### H4号住居址観察表



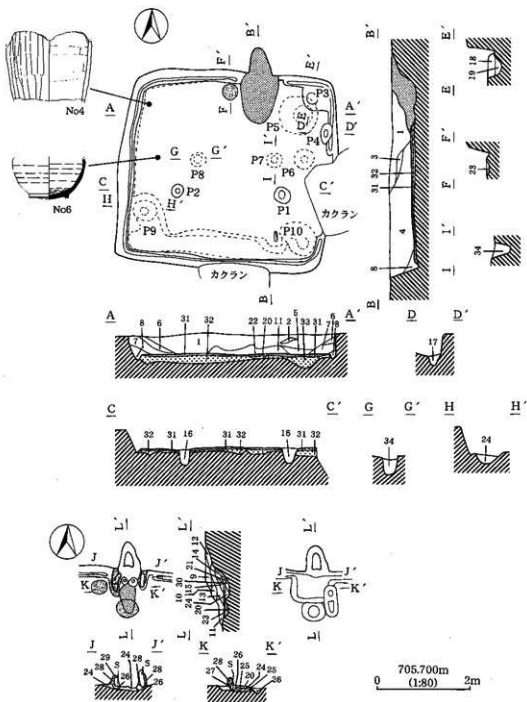
#### H4号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	壁	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	埴	11.8	丸底	8.5	外面	へら削り	90	良好	5YR5/6 褐色	
2	土師器	埴	(11.0)	丸底	8.8	外面	へら削り	20	良好	7.5YR7/4 黄い褐色	
3	土師器	埴	(14.0)	-	-	外面	へら削り	(1)輪20	良好	7.5YR7/6 褐色	
4	須恵器	高台付埴	(16.8)	(12.6)	4.2	内外面	ロクロコナデ 底縁 高台張り付け	10	良好	2.5GY5/1 灰ネリープ色	
5	須恵器	高台付埴	(17.8)	(16.4)	4.8	内外面	ロクロコナデ 底縁 高台張り付け	15	良好	2.5GY5/1 灰ネリープ色	

#### H4号住居址出土遺物観察表



H 5 号住居址



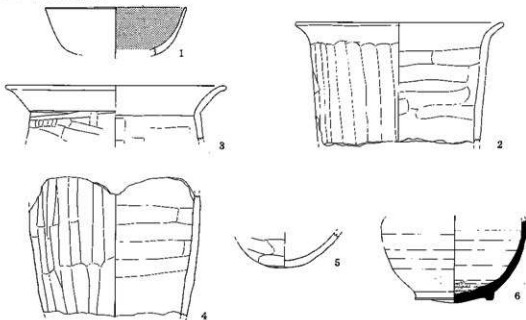
H 5 号住居址実測図

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒含む。しまりあり。
- 2 黄褐色土(10YR5/6) ロームブロック。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ローム多く含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム多く含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒含む。しまりあり。
- 7 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ローム粒、ロームブロック含む。
- 9 褐色土(10YR4/6) 軽石含む。ローム土多く含む。
- 10 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒少量含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ロームブロック多く含む。
- 12 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロック含む。
- 13 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒、ロームブロック、軽石多く含む。
- 14 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロック、軽石多く含む。
- 15 明黄褐色土(10YR6/3) 白色粘土層。しまりあり。
- 16 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒含む。しまりなし。
- 17 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粒土無くしまりなし。
- 18 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒含む。
- 19 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりなし。
- 20 明赤褐色土(5YR5/6) 粘土層。
- 21 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粒土、炭化物含む。しまりなし。
- 22 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、軽石、炭化物含む。しまりなし。
- 23 灰色土(5YR4/1) 粘土層。しまりあり。
- 24 にぶい褐色土(7.5YR5/3) ローム主体。粒土含む。
- 25 明褐色土(7.5YR5/6) 粒土、炭化物含む。
- 26 褐色土(7.5YR4/4) 粒土、ローム粒含む。しまりなし。
- 27 暗褐色土(10YR3/3) 粘土層。しまりあり。
- 28 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘土層。しまりあり。
- 29 暗赤褐色土(5YR3/3) 粒土、炭化物多く含む。
- 30 褐色土(10YR4/4) 粒土。粒土含む。
- 31 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。(層り床)
- 32 明黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりややあり。
- 33 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロック、軽石含む。
- 34 明黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりなし。

遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱穴(個)	貼り床(cm)	竪方(cm)	出土遺物	重複遺構
II 5	A-C-0	隅丸方形	北壁中央	奈良	4+6	2~6	2~18	土師器 須恵器	東壁に埋込
竪	ca	壁長	壁高	遺構は調査区北端に位置する。壁高は33~50cmを測り、やや外傾気味に立ち上がる。壁際には幅15cm、深さ10cm内外の凹溝が存在した。床は貼り床され、ピットは4個確認できた。P.1、P.2が柱穴と考えられる。かまどは北壁のやや東よりに埋設され、袖及び火床の一部が残存していた。袖の先端及び内壁の一部には石材が使用され外側を粘土で覆っていた。竪方は、床下2~18cmの厚さで埋り込まれ、暗褐色土が埋め込まれていた。竪方からは新たに6個のピットが認められた。					
	北壁	390	37~46						
	南壁	425	40~47						
	東壁	375	33~47						
横	西壁	360	37~50						

遺物は土師器の環、埴、須恵器の環、壺、甕が出土した。図示できたのは6点である。

II 5号住居址観察表



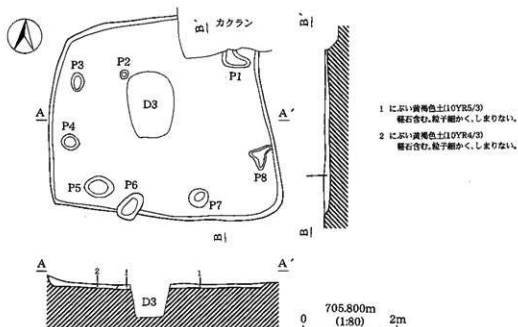
II 5号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	裏	裏	裏	残存率%	焼成	色調	備考	
1	土師器	坏	15.0	-	-	内面	黒色ぬり		75	良	2.5YR5/4 鈍い赤褐色		
2	土師器	甕 (32.2)	-	-	-	口縁 内面	黒コナデ ヘラナデ	外面	ヘラ削り	口縁45	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
3	土師器	甕 (33.4)	-	-	-	口縁 内面	黒コナデ ヘラナデ	外面	ヘラ削り	口縁45	良好	5YR5/6 明赤褐色	
4	土師器	甕	-	-	-	外面 内面	ヘラ削り ヘラナデ		体部のみ	良好	7.5YR/8 黄褐色		
5	土師器	甕	-	丸底	-	外面	ヘラ削り		底部40	良	5YR5/6 褐色		
6	須恵器	甕	-	8.2	-	内外面 底面	ロクロナデ 高台盛り付け		30	良好	7.5Y5/1 灰色	自然釉	

H5号住居址出土遺物観察表

## 第2節 竪穴状遺構

T a 1号竪穴状遺構

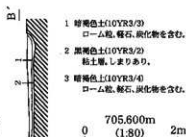
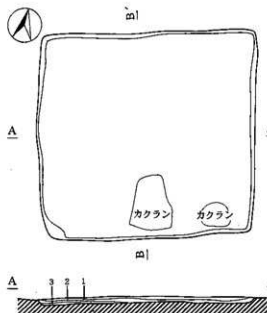


T a 1号竪穴状遺構実測図

遺構名	検出位置	平面形	ピット
T a 1	C-ス-9	方形	8
	壁長 (m)	壁高 (m)	出土遺物
北壁	(410)	3~7	重積遺構等 北東隅壊乱 D 3
南壁	490	5~11	
東壁	(431)	6~14	
西壁	380	3~23	

T a 1号竪穴状遺構観察表

T a 2号竪穴状遺構

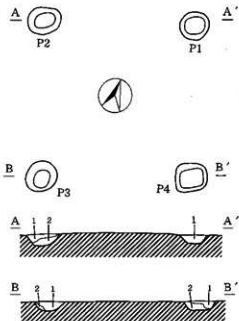


遺構名	検出位置	平面形
T a 2	E-く-8	方形
	壁長 (m)	壁高 (m)
北壁	4.46	7~16
南壁	4.30	5~14
東壁	4.30	4~10
西壁	4.34	9~15

T a 2号竪穴状遺構実測図

T a 2号竪穴状遺構観察表

### 第3節 掘立柱建物址



- 1 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック、軽石含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム土体、粒子細かい。

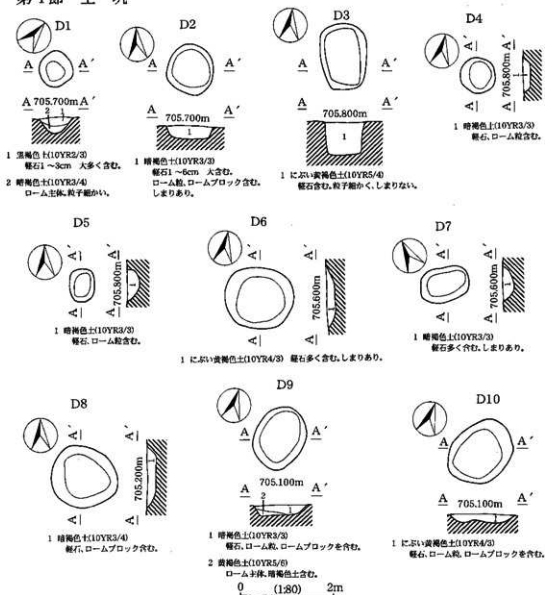
705.700m  
(1:80) 2m

検出位置	形 態	規模(西)
C-4イ-8	方形	1×1
ピット形 態	ピット規模(直径×深さ) cm	
円形・厚丸方形	P1-70×22	
ピット間隔 (m)	P2-64×14	
柱径	P3-63×15	
出土遺物	P4 70×19	
備 考		

F 1号掘立柱建物址実測図

F 1号掘立柱建物址観察表

## 第4節 土坑

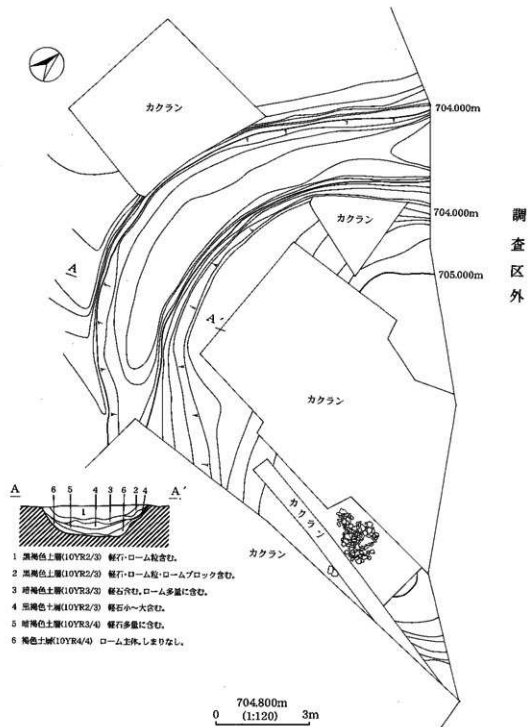


土坑実測図

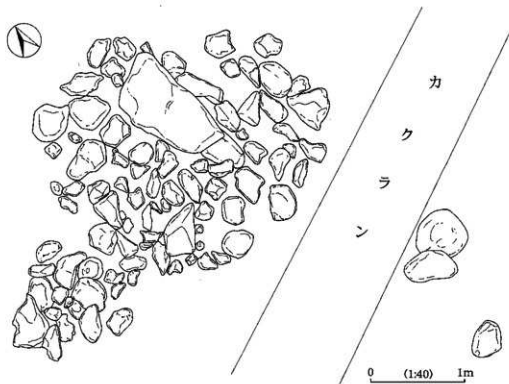
遺構名	検出位置	形態	規模(東西×南北×深さ) cm	出土遺物	備考
D 1	G-い-1	円形	78.4×72×33		
D 2	C-い 8	円形	87×105×28		
D 3	C-お-9	長方形	96×96×60		
D 4	B-け-8	円形	76×72×14	須色器・土師器片	
D 5	B-け-9	長方形	52×72×27	土師器片	
D 6	E-こ-4	円形	152×96×18		
D 7	E-く-3	楕円長方形	88×74×17		
D 8	E-え 10	不整形円形	100×89×19		
D 9	I-え-1	不整形方形	112×96×28		
D 10	I-う-1	不整形形	136×145×16		

土坑観察表

## 第5節 古墳跡



古墳跡実測図



古墳跡内集石実測図

四ツ塚遺跡の所在する地域は以前は、古墳と考えられる幾つもの塚が存在していたとされる。しかし、現在その存在が確認されるのは昭和のはじめに行われた旧三井小学校建築に伴う造成等によって北側を削り取られた塚1基である。これは四ツ塚古墳と称し、佐久市遺跡詳細分布調査報告書に掲載されている。

今回、調査対象となった地域は、この小学校跡地にあたることから、破壊された古墳の確認が期待されたが、本調査に先立ち行われた試掘調査では古墳の確認は出来なかった。しかし、本調査によって調査区南東の四ツ塚古墳1号墳から北に約20mの地点において、古墳の周溝跡が認められた。当初この周溝は調査区外に伸びる1本の溝跡と考えられていたが、検出作業を進めるに従い、溝が円を描くように伸びていることから拡張作業を行った。その結果、周溝と思われる溝が円の4分の1程度確認でき、古墳跡が存在することが判明した。これにより古墳主体部の確認も期待されたが、南はプール跡、主体部付近はゴミ穴といったように攪乱が激しく、周溝の一部を除き完全に破壊されていた。僅かに主体部あるいは羨道に使用されたと考えられる集石が残存していただけであった。また、周溝が延びると予想される調査区北側はすでに台地を削平し道路が建設されており、古墳北側は墳丘・周溝ともに破壊されていた。

周溝は確認面での幅2.5m、底幅1.0m、深さ0.8mを測り、覆土は底付近は地山のロームを多く含む黄褐色土、その上層は粒子の細かい黒色土が堆積していた。

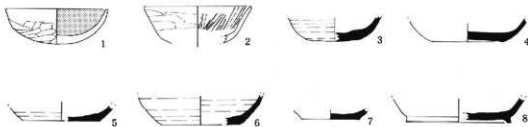
遺物は覆土中から土師器杯・甕、須恵器杯・甕・横瓶・器種不明品が出土した。また、主体部付近の攪乱からは、台付甕、人骨片（頭骨・歯）、埴輪片が出土している。

土師器杯は8世紀前半の丸底で内面黒色処理を施すものと、底部平底と思われ内面にミガキを施すものの2種が認められた。須恵器杯は高台付と平底で底部は回転糸切りの9世紀前半のものと底部全面にヘラ削りを施す8世紀始めのものが存在した。高杯は脚部のみで薄手の外面に縦方向のヘラ削りを施す7世紀末のものが認められた。長頸壺は9世紀前半の口縁部を欠損し、外面に自然釉が付着したものと、頸部のみで2点が出土した。須恵器甕はいずれも小破片で大半が内面同心円の当て具痕、外面平行叩きを施している。器種不明品は土師質で木の葉を模した土器的なもので非常に特徴的であるが時期は不明である。このように、周溝内出土遺物は攪乱出土品を除くと7世紀末、8世紀始め、9世紀前半の3時期に分類可能であった。人骨片（頭骨、歯）については埋葬時期は不明だが、古墳に埋葬された人物のものと考えられる。

古墳の築造年代は、古墳自体大半が破壊され不明な点が多い状況であったが、僅かに残る周溝は深さがありしっかり掘りこまれていること、また主体部は半地下式であった可能性があることから7世紀末頃の古墳形態との類似が見受けられる。また古墳周溝から出土した遺物の下限は7世紀末のため、本古墳址の築造年代は7世紀末頃と想定し得る。他の遺物については遺物の時期が3時期に分類できることから、築造後少なくとも2回の追葬があったか、または後生の特殊な儀礼に使用された土器である可能性が推察できる。また、2片の埴輪については、周辺地域の状況から円筒埴輪が古墳上に飾られるのは6世紀頃であり、本古墳址の築造年代とは時期差があるため混入遺物と思われる。しかし、四ツ塚塚道跡周辺に存在していた古墳群の中には埴輪を飾った古墳も存在していたのだろう。

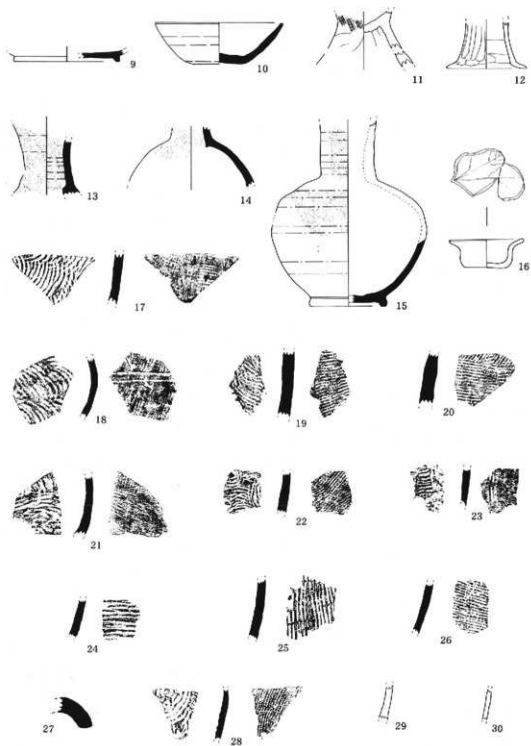


古墳跡出土埴輪実測図



古墳跡出土遺物実測図(1)



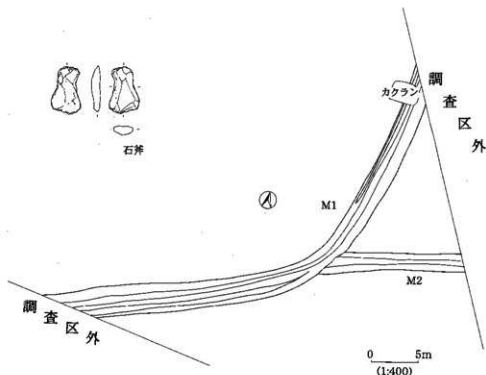


古墳跡出土遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	土師器	坏	10.8	丸底	3.7	外面底部裏辺 ヘラ削り 内面 紫色処理	85	良	10YR8/4 淡黄褐色	8c初層
2	土師器	坏	(11.4)	-	-	外面 ヘラ削り 内面 ミガキ	20	良好	5Y7/6 灰色	8c初層
3	須恵器	坏	-	(7.4)	-	内外面 ロクロナデ 底部 ヘラ削り	底部45	良好	2.5Y8/3 灰黄色	8c初層
4	須恵器	坏	-	(7.4)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	底部85	良好	2.5Y8/3 鈍い黄褐色	9c前半
5	須恵器	坏	-	(8.2)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	底部20	良好	5Y5/1 灰色	9c前半
6	須恵器	坏	-	(8.2)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	底部20	良好	2.5Y6/2 灰黄色	9c前半
7	須恵器	坏	-	(8.2)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	底部25	良好	2.5Y3/1 黒褐色	9c前半
8	須恵器	高台付坏	-	(11.0)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り後両台貼り付け	底部45	良好	10Y5/1 灰色	8c初層?
9	須恵器	高台付坏	-	(11.2)	-	底部 高台張り付け	底部20	良好	2.5GY5/1 灰オリーブ色	9c前半
10	須恵器	坏	12.7	5.4	4.4	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	75	良好	2.5Y4/1 黄灰色	9c前半
11	土師器	台付甕	-	-	-	胴部外面 ヘラ削り 脚部内面 ヘラナデ	台部15	良	10YR7/8 明黄褐色	6c
12	土師器	高坏	-	(8.5)	-	胴部外面 ヘラ削り 脚部内面 ヘラナデ	胴部15	良好	10YR7/6 明黄褐色	7c末
13	須恵器	甕	-	-	-	内外面 ロクロナデ 胴部 張り付け	胴部の一 部	良好	7.5Y7/1 灰白色	自然物 9c前半
14	須恵器	横瓶	-	-	-	内外面 ロクロナデ 胴部 貼りつけ	胴部端部 の一部	良好	5Y5/1 灰色	自然物 7c末
15	須恵器	長頸甕	-	8.0	-	内外面 ロクロナデ 胴部・高台 張り付け	75	良好	7.5Y7/1 灰白色	自然物 9c前半
16	土師器(?)	不明	(7.8)	(4.5)	3.0	底部 木蓋 外面 ハケ目	50	良好	5YR5/8 明赤褐色	
17	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 凹心円	体部破片	良好	N8/0 暗灰色	
18	須恵器	甕	-	-	-	外面 叩き 内面 凹心円	体部破片	良好	N8/0 灰色	
19	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 凹心円	体部破片	良好	N8/ 灰色	
20	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き	体部破片	良好	N8/ 暗灰色	
21	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 凹心円	体部破片	良好	N5/ 灰色	
22	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 凹心円	体部破片	良好	10Y8/1 灰色	
23	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 凹心円	体部破片	良好	N7/ 灰白色	
24	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き	体部破片	良好	10Y4/1 灰色	
25	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き	体部破片	良好	2.5GY8/1 オリーブ灰色	
26	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き	体部破片	良好	2.5GY7/1 オリーブ灰色	
27	瓦	男瓦	-	-	-	内外面 ナデ	小口破片	良好	2.5GY5/1 オリーブ灰色	
28	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 凹心円	体部破片	良好	N8/ 暗灰色	
29	土師器	甕	-	-	-	-	体部破片	良好	7.5YR4/4 鈍い褐色	
30	土師器	甕	-	-	-	-	体部破片	良好	10YR8/3 淡黄褐色	

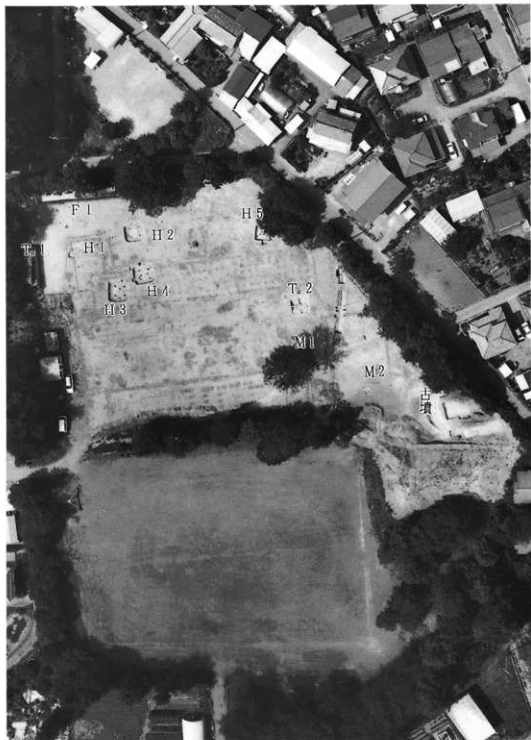
古墳跡出土遺物観察表

## 第6節 溝状遺構



溝状遺構実測図

本遺跡において溝状遺構は2条認められた。M1号溝状遺構は、調査区東の区域外との境界から確認でき、南方向におよそ20m延びた地点から、緩やかなカーブを描き西方向に向きを変え調査区域外に至る。確認面上での幅は2.5~3.5m、底幅は0.45~0.80m、深さは0.70~1.0mを測る。形状はV字を呈し、確認された溝のほぼ中央に位置するカーブ以北では西壁にテラスを持ち、カーブ以西では南壁にテラスを持つ。覆土は上層で黒褐色土、中間層は暗褐色土、下層は地山ロームを主体とする黄褐色土であった。遺物は上層の黒褐色土内から流れ込みと考えられる石器・須恵器・土師器の小破片が僅かに認められた。M2号溝状遺構は、調査区東の区域外との境界から確認でき、西方向に14m延びた地点においてM1号溝状遺構と合流する。確認面での幅は1.8~2.2m、底幅0.5~0.9m、深さ0.3m内外を測る。覆土は黒褐色土であった。遺物は上層から流れ込みと考えられる須恵器・土師器の小破片が僅かに認められた。本溝状遺構の掘り込まれた年代は、調査区が限られていたため遺構の全体像を伺い知ることができなかつたこと、時期を特定しうる遺物の出土が得られなかつたことから正確な時期決定には至らなかつた。しかし、溝の形態がV字状を呈し、しっかり掘り込まれていること、付近には城跡と呼ばれる地域が認められることなどから、中世である可能性が強いと考えられる。



四ツ塚遺跡Ⅰ全体航空写真



四ツ塚遺跡Ⅰ航空写真（北から）



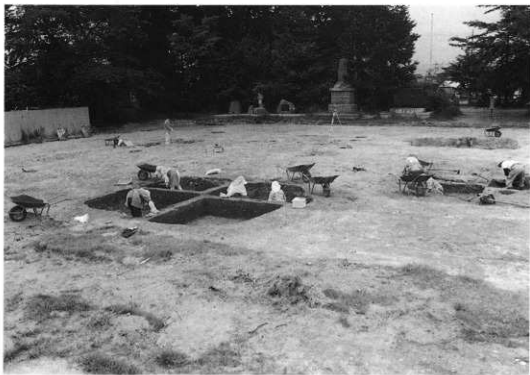
四ツ塚遺跡Ⅰ航空写真（西から）



調査風景 (1)



調査風景 (2)



調査風景 (3)



調査風景 (4)



H1号住居址



H1号住居址セクション





H1号住居址かまどセクション



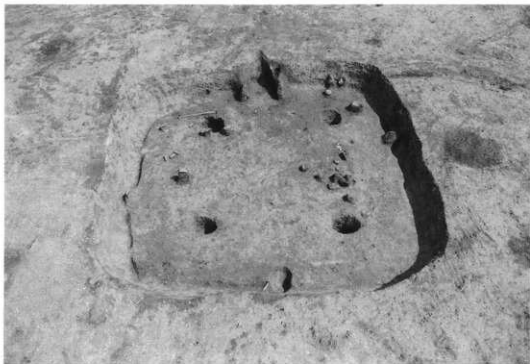
H1号住居址かまど



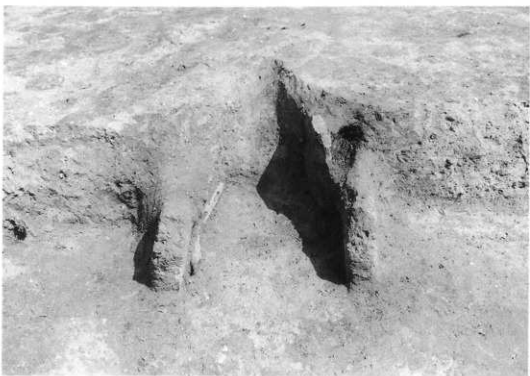
H1号住居址かまど堀方



H1号住居址堀方



H2号住居址



H2号住居址かまど



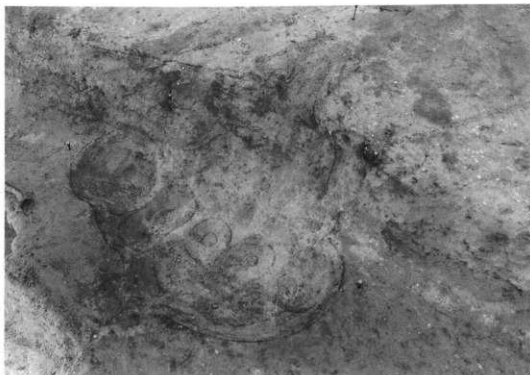
H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址遺物出土状況



H2号住居址かまど堀方



H2号住居址堀方



H3号住居址



H3号住居址かまど



H 3 号住居址調査風景



H 3 号住居址遺物出土状況



H 3 号住居址遺物出土状況



H3号住居址壺方



H3号住居址かまど壺方





H4号住居址



H4号住居址かまど



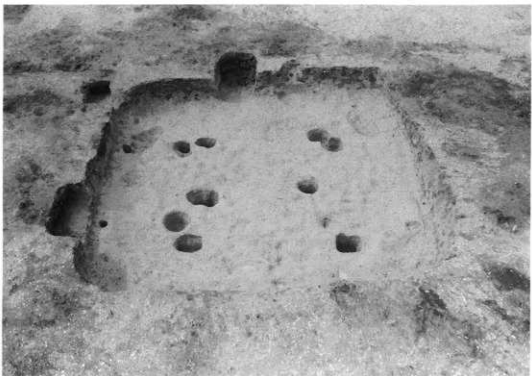
H4号住居址かまど



H4号住居址遺物出土状況



H4号住居址かまど堀方



H4号住居址堀方



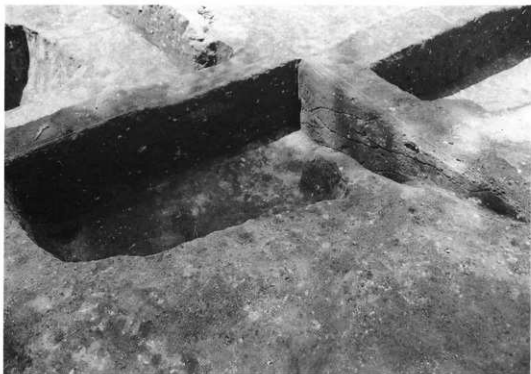
H5号住居址



H5号住居址かまど



H5号住居址遺物出土状況



H5号住居址セクション



H5号住居址東方



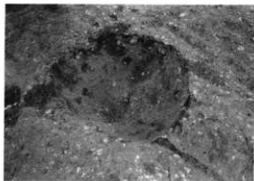
Ta1号竪穴状遺構全景



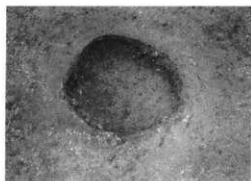
Ta2号竪穴状遺構全景



F 1号掘立柱建物址全景



D 1号土坑全景



D 2号土坑全景



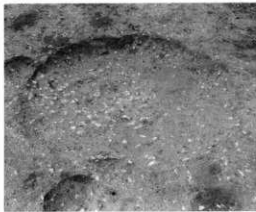
D 3号土坑全景



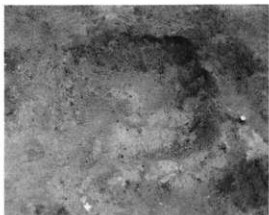
D 4号土坑全景



D 5号土坑全景



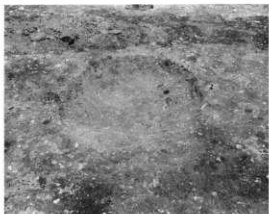
D 6号土坑全景



D 7号土坑全景



D 8号土坑全景



D 9号土坑全景



D 10号土坑全景